

盛岡第四高校 HP制作委員会企画

盛岡四高 弦楽部紹介

ページ制作：盛岡第四高校HP制作委員会

写真：小原 将人 文章：大平 冬也

恐らく、“弦楽”という響きは、あまり聞きなれないのではないだろうか。私自身、入学当初耳にしたときは、バイオリンやチェロといった、それこそ弦楽器を奏でるのでは、などと当てもない思索にふけていた。しかしその矢先、入学後すぐに行われた部紹介で登場した“弦楽部”の演奏を観た衝撃は、今でも忘れられない。体育館のステージに現れたのは、ギターやベースなど、思い思いの楽器を手にした、まさしく弦楽部の先輩方であった。入学したての私たちを、手厚い演奏で席卷した弦楽部は、世間一般に言う“軽音楽部”だったのである。今回は、あれから一年と数ヶ月、部としての枠組みを超え各々が進化を続ける我らが四高弦楽部を紹介したいと思う。

現在弦楽部には、総勢67人が所属している。部内や校外でバンドを組んだり、ライブ等の活動に余念が無かったりと、個々人の意欲次第で多種多様な広がりを見せる、自由度の高さが魅力の部である。そのためか、他の部と掛け持ちを行っている人も少なくなく、青春時代に貪欲な生徒や、もちろん初心者から経験者まで気軽に入れる印象も持っている。部室には各バンドが練習する場も設けられており、まさに至れり尽くせりと言えよう。

ちなみに、ドラムは部室に備え付けであり、他校でも滅多に見られない、“チャイナシンバル”というものもあるそうだ。

兎にも角にも、興味があれば入部してみるのも手かもしれない。

今回はさらに、今後の弦楽部を引っ張っていく存在を担うバンドの内、ふたつのグループに焦点を当ててみよう。

まずは、昨年夏の志高祭で鮮烈なデビューを飾った、ViViD Blue（通称びびっど）だ。



※写真は練習風景

2年生4人（Gt/Vo, Gt, Ba, Dr）で活動しているガールズバンドであり、7月にはライブを控えている。当初とメンバー構成は同じだが、ドラムの入れ替わりを経て現在の面子となった。バンド名には、今年の1月にメジャーデビューを果たしたV系ロックバンド、「ViViD」の名を冠し、初ライブとなった志高祭では、ロックな衣装に身を包み、観客を魅了した。バンドとしての頭角を現す日も、そう遠くないだろう。

続いては、こちらも盛岡を中心に活動を広げる、New Clear Mode（通称NCM）だ。



※写真は練習風景（Ba, Drのみ）

昨年5月末に結成された男子4人（Gt/Vo, Gt, Ba, Dr）のバンド。結成当時は5人であったが、メンバーの脱退を経て、4人体制となった。こちらは同年7月に初ライブを敢行。その後も精力的に活動をし、あの十代バンドの祭典、2011年度『閃光ライオット』の一次審査を見事通過した。これによって、バンドとしての風格や貫禄も、より一層強まったに違いないだろう。今年の7月には宮城県仙台市にて二次審査を控えている。今後の展開も楽しみなところだ。

感想

取り上げてみると、いかに個々の働きかけが強い部であるかがわかった。積極性さえあれば、他の部よりも充実した活動が出来るのでは。記事を見て少しでも興味が沸いた人、あるいは、改めて興味を持った人は、一度ライブ等に足を運び、彼らの奏でる青春時代に触れてみてはいかがだろうか。恐らく、私と似たような衝撃を身に覚えるだろう。